

(熊毛郡中種子町大字増田字鳥ノ峯)

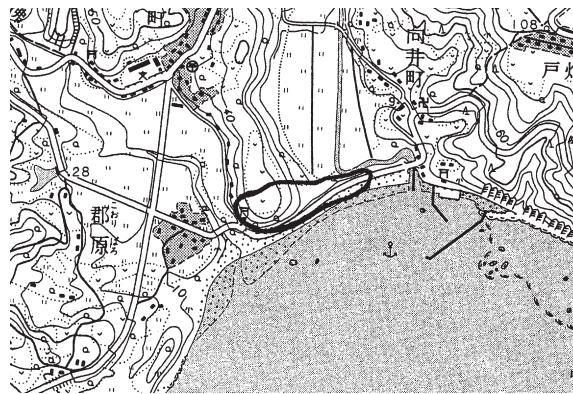
位置と環境

遺跡は町の中心部から北東へ約4km離れた東海岸沿いに位置し、太平洋に流入する向井川の後背地になる小規模な砂丘上に立地し、中瀬の浜と呼ばれる砂浜に面している。向井川下流の沖積地は町内随一の水田地帯である。砂丘は長さ350m、幅40～60m、海岸からの比高6～9.5mの東西方向に走るものである。

調査の経緯

砂丘前縁は現在の位置よりずっと海岸へのびていたが、波浪による侵食により崩壊され次第に後退し、さらに、第二次世界大戦に飛行場建設のため砂丘前縁を切って軍用道路がつくられた。こういった状況により、昭和31年砂丘崩壊面に人骨が露出しているという地元民からの連絡があり、現場の調査を行った。この結果、3個の自然礫の下に人骨片が錯乱しているのを確認した。その後、昭和35年夏、砂丘崩壊面に数個の自然礫を用いた遺構が露出し、付近一帯に弥生式土器片が散乱していた。これらの土器片を採集して復元したところ底部を欠いてはいるが、ほぼ2個体の甕形土器の完形品になった。

本遺跡は、遺体を埋葬後、上に自然礫を配石する覆石墓との可能性が推察され、埋葬習俗や在地土器を解明するとともに、南種子町広田遺跡や本町阿嶽洞穴など弥生時代遺跡などとの関連を知る上で重要な遺跡と考えられることから発掘調査を実施するこ



第1図 鳥ノ峯遺跡の位置

ととなった。

調査は、昭和36年(1961)、昭和41年(1966)、昭和46年(1971)の三次にわたって実施された。

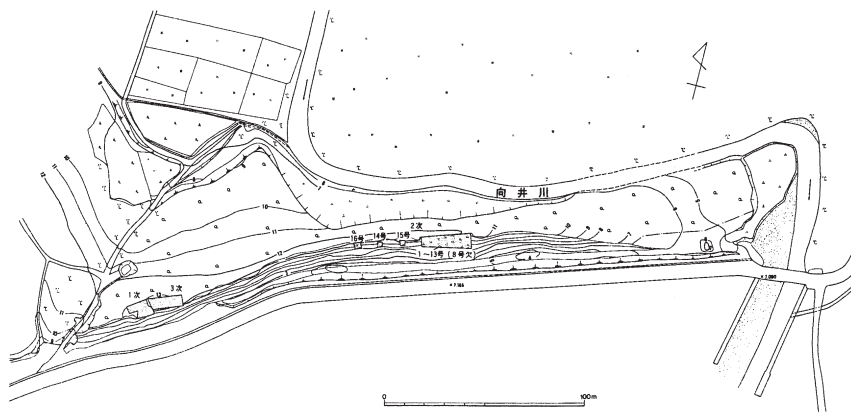
第1次調査は、昭和36年3月25日から3月31日にかけて実施した。この調査は、中種子町郷土誌編纂に必要な資料得るため、町の援助・協力により行った。

第2次調査は、昭和41年8月15日から8月29日にかけて実施した。梅雨前線により降り続いた豪雨により砂丘の一部が崩壊し、遺構が数基以上露出し、さらに崩壊する恐れがあったことから、町の援助、協力を得て行った。

第3次調査は、昭和46年8月27日から9月9日にかけて実施した。金関丈夫を代表とする「西南日本の人類学的研究」と題して、文部省科学研究費の助成を受けて行った。

遺構と遺物

第1次調査では、覆石墓5基と5体の埋葬人骨が



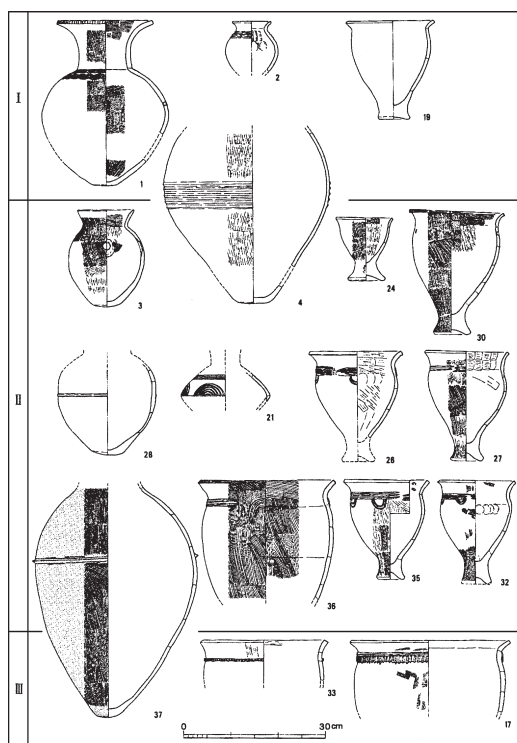
第2図 鳥ノ峯遺跡調査地及び周辺地形図

検出された。

第2次調査では、覆石墓15基と15体の埋葬人骨が検出された。

第3次調査では、覆石墓10基と12体の人骨が検出された。(10基の覆石墓のうち7基を発掘した。)人骨は、覆石墓とまではいかない人骨4体と集骨された人骨1体が検出された。

土器は、甕形土器や壺形土器が出土した。ほとんどが供献土器であったため、復元できた。この中で甕形土器は、きわめて在地的な要素が強く他地域との比較は難しいと考える。しかしながら壺形土器については、搬入品(第3図1)と考えられるものもある。1は、東九州特に豊後地方に分布の主体を持つ壺である。丸底化しつつある底部、口縁端の櫛による刺突文、肩部の櫛描き波状文等の諸特徴をもっているところから弥生時代後期後半に位置づけられる。21は、熊本県人吉地方を中心に分布する免田式土器の長頸壺で、小破片であるが算盤玉状の胴部と、重弧文多条の沈線等の諸特徴が観察され、弥生時代後期終末に位置づけられるものである。こういった観察から土器の編年を行ったのが第3図で、甕形土器との出土状況による共伴関係によりIが弥生時代



第3図 鳥ノ峯遺跡出土土器編年図

後期後半、IIが弥生時代後期終末、IIIが古墳時代初頭という考察がされている。

石器は、磨製の石鏃が7点(第4図)と凹石が1点出土した。この中で7は、第3次調査9号人骨の胸部から出土したものである。出土状況から判断すると被葬者に刺突されたものが、軟部の腐敗によって出土したものと考えられる。

着装品(第5図)は、ガラス玉(1~12)、碧玉製管玉(13)、貝玉(14~40)、貝符(55・56)、貝製有孔方形板(51~53)、垂飾(54)、貝輪(第6図)、夜光貝容器といったものが出土している。ガラス玉から垂飾については、首飾りに使用されていたものと考えられる。貝輪は、右手前腕に装着されていたものである。夜光貝容器については、残存状態が悪いものであった。

特徴

弥生時代の埋葬習俗や人骨について貴重な資料を提供しているところであるが、出土人骨が本土の縄文集団との類似性を示していることなど含めて、地域的広がりや時代的な推移等検討課題も多いと考えられる。

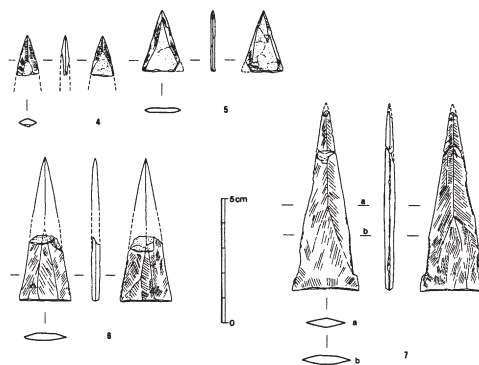
資料の所在

出土遺物は、中種子町立歴史民俗資料館に展示・保管されている。

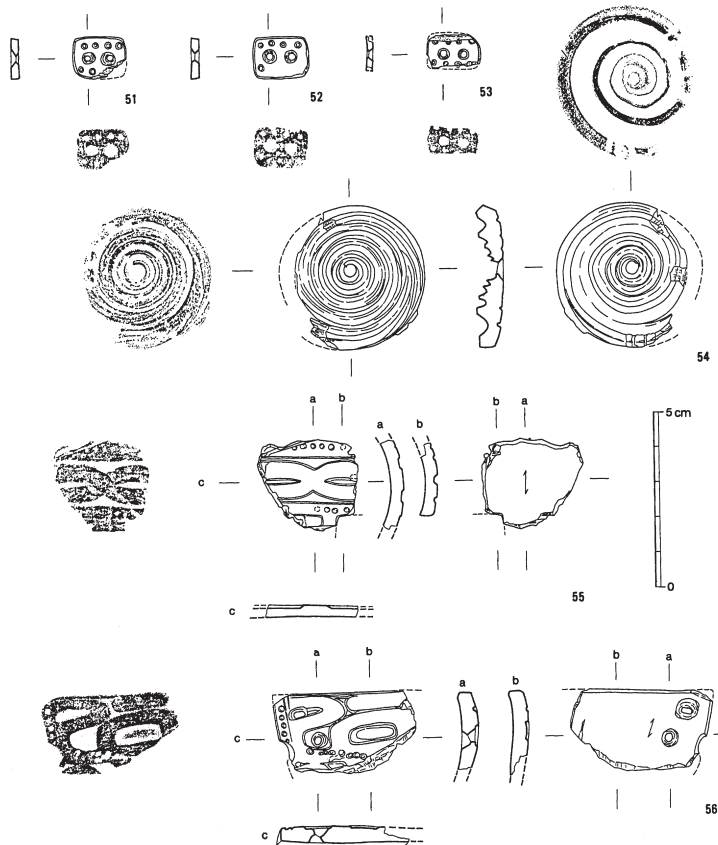
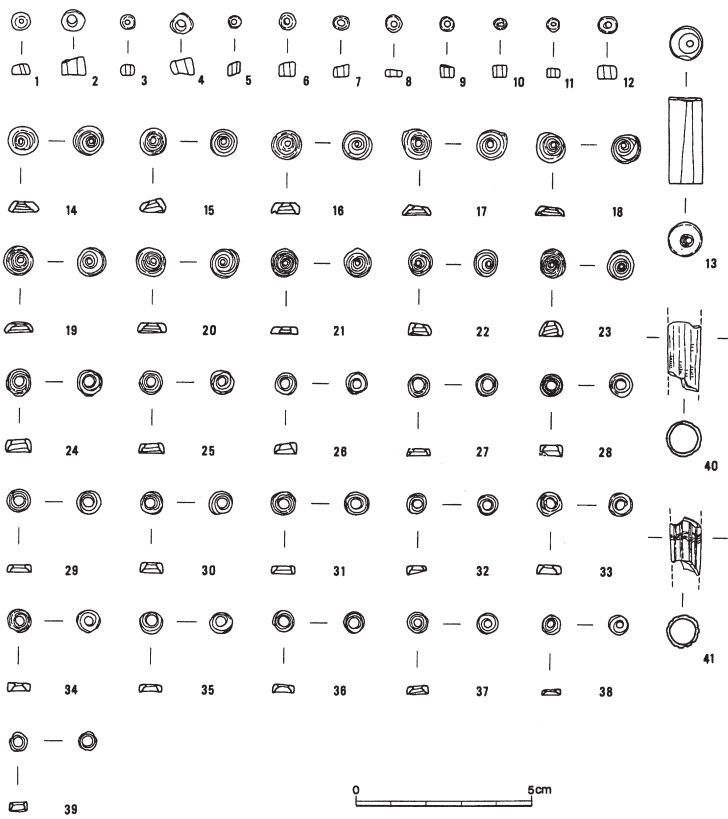
参考文献

鳥ノ峯遺跡発掘調査団1996「鳥ノ峯遺跡」『中種子町埋蔵文化財調査報告書』2

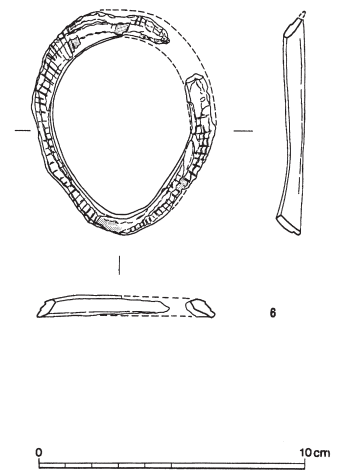
(田平祐一郎)



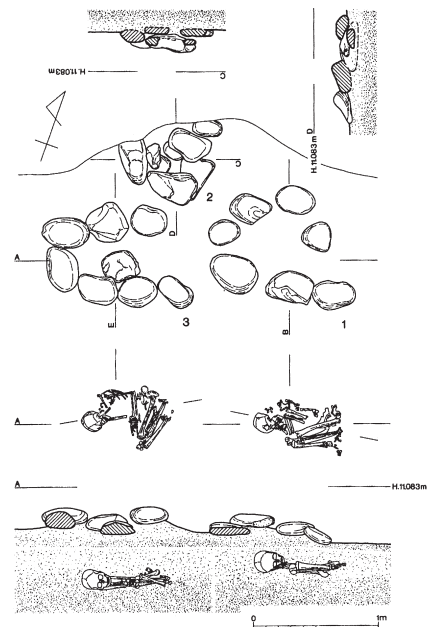
第4図 鳥ノ峯遺跡出土石鏃



第5図 鳥ノ峯遺跡出土着用品



第6図 鳥ノ峯遺跡出土貝輪



第7図 覆石墓及び人骨出土状況